

枚方市と枚方市職員関係労働組合の団体交渉の要旨

1. 日 時 令和2年(2020年)6月15日(月) 午後6時30分～午後7時15分
2. 場 所 職員会館4階・大会議室
3. 出席者 組合側：執行委員長以下約20名
市 側：総務部長、総務部次長、人事課長、職員課長、教育政策課長、上下水道局経営総務課長、市立ひらかた病院総務課長、書記(人事課・職員課 課長代理)
4. 課 題 「2020年職員採用・人事制度に関わる要求書」及び「男女平等に関する要求書」に基づく交渉(1回目)

<交渉内容要旨>

I. 今年度の採用試験について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の採用試験については、例年9月に実施している府下統一採用試験に合わすのではなく、7月に前倒して実施するとのことだが、その内容など現時点で示せるものはあるか。 ・ 採用規模等については、概ねどのように考えているのか。また、最終的な組合への通告はいつ頃を予定しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度については、新型コロナウイルス感染症の第2波等が懸念される中、早期の雇用内定を創出するとともに、優秀な人材を確保していく観点から、7月に本市独自で採用試験を行っていきたいと考えている。 ・ 採用規模等については、新たな行政需要や退職者数、事務量の増減や職場実態なども踏まえ、総合的に判断していく。更に、今回はコロナ禍における失業者や就職氷河期世代への対応についても、一定の検討を行っていく。組合への最終通告については、2回目交渉翌日の夕方を目途に行いたい。

II. 技能労務職員の採用について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能労務職については、2年連続で募集が見送られたが、歪な年齢構成の解消や知識・技術の継承の観点から、これ以上の見送りは行うべきでない。現時点で何か言えることはあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての職種について、適正な年齢構成の維持、知識・技術等の継承といった観点は重視すべきと認識しているが、職のあり方や各職場における体制の見直しの取組方針等を踏まえ、更に精査する必要があると考えている。

Ⅲ. 人員配置等について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> 大規模な機構改革に加え、コロナ対応に伴う事務量増加などにより、各職場は相当疲弊している。とりわけ、コロナ関係については、第2波等に備えた人員配置をどのように行っていくのか、事前に十分検討しておくべきと考えるが、見解を聴く。 技能労務職場の中でも、職員定数基本方針の対象でない職場は毎年のように職員が減少しているが、どのように考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員配置については、各部ヒアリングの内容や新たな行政需要、更には機構改革や時間外勤務の状況等も踏まえ、行ったところである。コロナ関係については、一義的にはそれぞれの部門において、第2波等に備えた対応を検討するべきものと考えている。 各職場の要望等を見極めた上、会計年度任用職員の活用も含め、引き続き適正な職員配置に努めていく。

Ⅳ. 任期付職員及び会計年度任用職員の処遇について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> 任期付職員における給与水準や更新の手法等について、更なる改善が必要だと考えるが、どうか。 会計年度任用職員の処遇について、国の財源措置等も踏まえ、改善を進めべきと考えるが、どうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 法の趣旨を踏まえた上での適切な対応が必要と考えている。 今後も新たな情勢変化等を踏まえ、必要に応じ労使協議を行っていきたい。国の財源措置については、本制度導入に際し本市が要した費用が補填されるものである。

Ⅴ. 新入職員等の育成について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> この間のコロナ対応等により、新入職員など若手職員の育成が十分にできていない現状があると考えているが、今後の予定等を確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対応に一定の目途が見通せるようになってきたことから、まずは6月中を目途に、指導育成者となるメンターに対する研修を実施する予定である。

Ⅵ. 男性の育児休業について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> 近年における男性の育児休業の取得状況について確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 直近5年間では、1名・4名・5名・7名・4名で推移しており、一定、増加傾向にあると考えている。